



2015年式FLHXをベースに、足回りを前26”、後18”のサンダーバイク製ホイールへと変更、ハイテックなイメージで仕上げている。

## TRIJYA Raven

文=黒川鉄仁 text by TED KUROKAWA 写真=渡辺まこと photographs by MAKOTO WATANABE  
取材協力=トライジャ phone 072-970-3110 <http://trijya.com>

バグー系の多くに共通するものとして挙げられるのは、ストレッチタンクに、エクステンドされたサイドバッグ、そして近年ではフロントに21”以上の大径ホイールを組むといった、ゴージャスなパーツをふんだんに使った仕様というイメージが有る。そうした点では、ここに紹介しているトライジャのバグーも同様ではあるのだが、しかし、そのフィニッシュに与えられたディティールをよく見れば、微細ながらも、このカスタムが他の多くのトレンドに従属したモノとは、方

向性を違えていることが理解できる。

とりわけ、主にリアエンドに見られるエッジの効いたディティールは、敢えて現在の主流である有機的で流麗な曲線一辺倒に抗い、オリジナリティを求めたもののだといえる。

ドイツのサンダーバイク製のホイールや外装など、現時点でハイエンドとされるパーツを多用しつつ、それらをすべてに於いて二次加工、アレンジを施してワンオフのごとく仕上げた辺りも見事なもの。才覚を感じるカスタムだ。



①エンジンは基本的にストックだが、カバー類にはトライジャのピレック、刻印に変更しドレスアップ。②マフラーはジキル&ハイド製。テールエンドはドイツのThunder Bike製を元に二次加工。よりディティールを凝らして仕上げている。③ハンドルはネス製を加工したもの。ミラーはクリアキン。全体の外観と合わせスクリューにもエッジを効かせている。④単にマットブラックで仕上げず、赤いピンストラップを加えたストレッチタンク。エッジがより強調されている。⑤ダービーカバー、ステップもともにトライジャの依頼に変更している。⑥走り心地の良さそうなワンオフのシート。特徴的なテールエンドが新鮮でもある。



## FREE STYLE CUSTOM & CHOP SPORTSTER Custom

文=伊藤潤一郎 text by JUNICHIRO ITO 写真=渡辺まこと photographs by MAKOTO WATANABE  
取材協力=フリースタイル カスタム & チョップ phone 0569-84-3573 <http://free-style-chopper.com>

フロント21”、リア18”のボラーニ製Hリムホイールに高さを抑えたハンドルバー、オートレーサー用を流用したシートやスイングアームマウントのフラットフェンダー、現代的なテイストを感じるマフラーなどを装着したこの一台は、愛知のフリースタイルカスタム&チョップによるマシン。そのディテールからも分かる通り、このカスタムではボバーやレーサー、チョッパーなど様々なジャンルのスタイルをミクスチャーさせることを目標に手が加えられている。



①2in1のエキゾーストはステンレス製。踏ね上がったサイレンサーとエンドの処理がじつにレーサーだ。②パイプを抑えたタンクはワンオフで製作。ソリッドブラックのペイントで極めてシンプルに纏められている。③オートレーサーから流用したシートとフラットフェンダーを合わせたシート周り。じつにユニークなセットアップだ。

冒頭のようにそのスペックだけを見ればあたかもチグハグなマシンになり兼ねないご覧の一台だが、その根底には”軽快に走る”というシンプルかつ明確な目標が掲げられており、結果としてその姿は独特な纏まり方を感じさせるもの。これは規定の枠に囚われない自由な発想ゆえの賜物だろう。一つの明確な目標を達成するべくビルダーならではの感性で結合された様々なスタイル。凝り固まった思考を捨て去ったからの結果が現れた、じつに個性的なマシンである。

ボバーやチョッパー、レーサーなど、様々なスタイルが上手くミックスされた一台だ。



①エキゾーストはバンス&ハインズ製を選択。純正ライクな車体にも良く似合うセットアップである。②この車両の目玉でもあるリアタイヤはなんと360mmの太さ。3次ドライブを採用することでタイヤを端まで使える走行性が実現されている。③ストック調のエクステリアに合わせ、シートもシンプルでデザインでフィニッシュされている。

純正ライクな姿ながらリアには360mmのワイドタイヤを装着。秀逸な出来栄だ。

一見、真横からの写真を見る限りではロングスイングアーム化されたダイナに見えるご覧の一台は、その実、リアに360mmのワイドタイヤがセットされたトライジャによるマシン。その純正ライクな姿からライトなカスタムに見えるが、同店のポリシーである適切な走行性を実現すべく、見えない箇所にはかなりの手が加えられている。

まずはその駆動方式だが、同店ではエンジンやミッションなどのオフセットによる重心の変化を避けるため、まずは

ワンオフの3次ベルトドライブを作成。その上でショックマウントを無垢から削り出しマウント位置や強度や角度を決定したとのこと。また、バッテリーボックスの後面にサイドフェンダーカバーを設けることで、ロングスイングアーム装着車にありがちな間延びした印象を解消することに成功している。

コーディネーターとも言うべき代表の岡本佳之の優れたデザインセンスとそれを正しく導く技術力。トライジャというショップの結束力、それを如実に証明する存在だ。

文=伊藤潤一郎 text by JUNICHIRO ITO 写真=渡辺まこと photographs by MAKOTO WATANABE  
取材協力=トライジャ phone 072-970-3110 <http://www.trijya.com>

## TRIJYA 360 Wide tire Dyana

